

登校回避感情と望ましくない生活習慣は関連  
文部科学省スーパー食育スクール事業の結果から

【目的】

不登校児童は小中学校で増加傾向にあり、登校回避感情を持つ児童は不登校に移行しやすいと考えられています。不登校の予防施策の策定には登校回避感情の関連要因を明らかにすることが重要です。そこで本研究は、富山県教育委員会との連携事業として実施された文部科学省スーパー食育スクール事業において小学生におけるメディア利用を含めた生活習慣や社会、家庭環境と登校回避感情との関連を明らかにすることを目的としました。

【方法】

対象は2014年7月に行われた文部科学省スーパー食育スクール事業に参加した富山県高岡市内の5つの小学校の1年生から6年生までの全児童です。計2,057人で、そのうち計1,936人から回答が得られました（回収率94.1%）。そのうち、本研究の解析に用いた項目すべてに回答した1,698人を対象として解析を行いました。本研究は自記式質問票によるもので、生活習慣や登校回避感情についての質問項目は児童と保護者が一緒に回答しました。また、父親の職業、母親の職業、暮らしのゆとりについての質問は保護者が回答しました。

【結果】

- ・3人に1人の児童が登校回避感情を持っている

登校回避感情を持っている児童の割合は32.2%でした。登校回避感情ありと関連をしていた要因は、学年では6年生を基準として1、3、4、5年生で登校回避感情を持つ人の割合が高いことがわかりました。調整オッズ比は、それぞれ1.48（95%CI:1.02-2.13）、1.63（95%CI:1.10-2.42）、1.60（95%CI:1.08-2.39）、1.56（95%CI:1.03-2.35）でした。

- ・登校回避感情と関連した生活習慣

他に関連した要因としては、朝食の欠食がある1.76（95%CI:1.12-2.75）、間食を毎日食べる1.64（95%CI:1.21-2.22）、テレビの視聴時間が3時間以上1.55（95%CI:1.05-2.28）、ゲームの利用時間が30分以上2時間未満1.37（95%CI:1.08-1.74）、睡眠不足を感じている1.51（95%CI:1.14-1.99）、目覚めの気分が良くない1.64（95%CI:1.30-2.06）、自分の健康に満足でない1.43（95%CI:1.10-1.87）、外遊びが嫌い1.62（95%CL:1.05-2.52）が、登校回避感情ありと関連しました。

登校回避感情に影響を与える生活習慣

|          |            | オッズ比<br>95%信頼区間   |
|----------|------------|-------------------|
| 朝食       | 欠食なし       | 1.00              |
|          | 欠食あり       | 1.76 (1.12-2.75)  |
| 間食       | 毎日食べる      | 1.00              |
|          | 毎日食べない     | 1.64 (1.21-2.22)  |
| テレビの視聴時間 | 2時間未満      | 1.00              |
|          | 2時間以上3時間未満 | 1.22(0.95-1.55)   |
|          | 3時間以上      | 1.55 (1.05-2.28)  |
| ゲームの使用時間 | 30分未満      | 1.00              |
|          | 30分以上2時間未満 | 1.37 ( 1.08-1.74) |
|          | 2時間以上      | 1.16 ( 0.64-2.09) |
| 睡眠不足感    | 感じていない     | 1.00              |
|          | 感じている      | 1.51 (1.14-1.99)  |
| 目覚めの気分   | 良い         | 1.00              |
|          | 良くない       | 1.64 ( 1.30-2.06) |
| 健康度      | 満足         | 1.00              |
|          | 満足していない    | 1.43 (1.10-1.87)  |
| 外遊び      | 好き         | 1.00              |
|          | 嫌い         | 1.62 (1.05-2.52)  |

【結論】

登校回避感情は様々な生活習慣と関連していたことがわかりました。今後、学校保健活動等を通して児童の望ましい生活習慣を確立していくことが、登校回避感情の回避につながる可能性があると考えられます。

【出典】

穂本昌寛、関根道和、山田正明、立瀬剛志. 登校回避感情と関連する要因：文部科学省スーパー食育スクール事業の結果から. 日本公衆衛生雑誌 2017；64(6)：311-321.